

令和3年度 岡谷市 予算編成の大要

令和3年2月

岡 谷 市

令和3年度の岡谷市当初予算案及び関係議案を議会に提出し、ご審議をいただくにあたり、予算編成の方針及び大要を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力をお願いするものでございます。

令和3年度は、「**第5次岡谷市総合計画**」の3年目であり、前期基本計画の中間年としてさらに加速度を上げていく年となることから、これまでの取組を検証しつつ、重点プロジェクトに基づく各種の取組を力強く推進する必要があります。

一方では、新たな課題にも迅速かつ柔軟に対応しながら、基本目標の達成と将来都市像「**人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷**」の実現に向けて、着実に前進しなければなりません。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）の拡大により、市民生活や地域経済はこれまでに例のない極めて深刻な影響を受けており、今もなお厳しい状況が続いていることから、感染防止対策を徹底しつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げていく中で、市民生活と雇用を守り、事業継続を後押しするほか、「新しい生活様式」を取り入れた新たな日常を構築し、定着させていくため、効果的な施策を継続的に、かつバランスよく展開していく必要があります。

また、感染症が本市の行財政運営に与える影響として、企業収益や個人所得の落ち込みによる市税収入の大幅な減、外出控えなどによる施設使用料収入の減などが見込まれるほか、歳出においては、感染症への備え、景気低迷に伴う社会保障関係経費の増などによる財政需要の拡大により財源不足が見込まれることから、全職員が危機意識を共有しつつ思い切った変革を実行し、市民の皆様とともにこの難局を乗り越えていくという思いを強くしております。

こうしたことを踏まえ、令和3年度は「**新たな日常の実現に向けた変革の年**」と位置づけ、時代の大きな変化に直面する中で、新たな時代における岡谷市のありべき姿を見据えるとともに、コロナ禍を地方創生の契機と捉え、本市が持つ独自の強み、特色を活かしながら、将来にわたって持続可能な確かなまちづくりを進めるため、各種の施策、事業に全力を傾注して取り組んでまいります。

令和3年度のがが国の経済情勢は、内閣府が公表した「**令和3年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度**」によりますと、「**国民の命と暮らしを守る安心**

と**希望のための総合経済対策**」を円滑かつ着実に実施すること等により、令和3年度中には経済の水準がコロナ前の水準に回帰することが見込まれるとしております。

今後の経済財政運営に当たっては、国民の命と暮らしを守るため、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図ることとし、公的支出による経済の下支えを図りつつ、設備投資をはじめとする民間需要を呼び込みながら、民需主導の成長軌道に戻していくとしております。

また、活力ある地方を創るべく、中小企業の生産性向上や最低賃金の全国的な引き上げに取り組むとともに、観光や農林水産業の振興などにより、地方の所得を増やし、地方を活性化させ、都会から地方へ、また企業間で、さらには中小企業やベンチャーへなど、新たな人の流れをつくり、海外の成長を取り込んでいくとしております。

このほか、「**経済再生なくして財政健全化なし**」の基本方針の下、「**経済財政運営と改革の基本方針2020**」に基づき、経済・財政一体改革を推進することとし、デフレ脱却と経済再生の道筋を確かなものとしつつ、歳出・歳入両面からの改革を推進することとしております。

このような見通しに基づく「**令和3年度予算編成の基本方針**」では、感染症との戦いの最前線に立ち続ける医療や介護の現場の方々の献身的な貢献を支えるため、医療提供体制の強化・検査体制の確保をはじめとする感染症の拡大防止策とともに、成長力強化のためのデジタル改革・グリーン社会の実現、活力ある地方づくり、切れ目ない子育て支援など、重要な政策課題への対応に必要な予算措置を講じ、ポストコロナの新しい社会の実現をめざすとともに、中長期的な成長力強化の取組を推進するとしております。

こうした方針に基づく国の令和3年度当初予算案は、一般会計の歳出総額を**106兆6,097億円**としており、過去最大の予算規模となっております。

また、総務省が公表した「**令和3年度地方財政対策**」によりますと、感染症の影響により地方税等が大幅な減収となる中、地方交付税について、前年度を約8,503億円上回る17兆4,385億円を確保するほか、交付団体ベースの一般財源総額については、前年度を約2,414億円上回る61兆9,932億円を確保することとしております。

地方創生に対しましては、地方が自主性・主体性を最大限発揮して地方創生に

取り組み、地域の実情に応じたきめ細かな施策を展開することができるよう、引き続き「まち・ひと・しごと創生事業費」として、歳出に1兆円を計上しております。

このほか、デジタル化によるメリットを享受できる地域社会のデジタル化を集中的に推進するため、新たに「地域デジタル社会推進費」として2,000億円を計上したほか、近年、災害が激甚化・頻発化する中、地方団体が引き続き防災・減災、国土強靱化対策に取り組めるよう「緊急自然災害防止対策事業費」について、前年度を1,000億円上回る4,000億円を計上するなど、地方が行う取組に対し、一定の財政措置がされたものとなっております。

この考え方に基づく地方財政計画の規模は、前年度比1.0%減の89兆8,400億円程度、公債費などを除く地方一般歳出につきましては、前年度比0.5%減の75兆4,400億円程度が見込まれております。

このような状況を踏まえ、岡谷市におきましては、感染症の影響による企業収益や個人給与所得の減などにより、法人市民税・個人市民税をはじめ、市税全体で大幅な減収を見込まざるを得ない厳しい財政状況を認識しつつ、感染症の拡大防止と社会経済活動の両立を図るため、効果的な施策を継続的に、かつバランスよく展開する必要があります。

また、一般会計の財政推計では、令和3年度以降についても市税をはじめとする歳入の減のほか、歳出においては高齢化の進展などによる扶助費や介護・医療への繰出金、公共施設等の維持管理経費の増が見込まれる中、引き続き、産業振興や子育て支援、市民の安全・安心を確保するための施策と健全財政の堅持に向けた取組との調和を図りながら、後年度の財政需要に配慮した安定的な行財政運営に努めなければなりません。

こうしたことから「岡谷市行財政改革プログラム」に基づき、公共施設等の計画的な修繕や長寿命化、類似施設の統合などによる最適化に向けた取組のほか、歳入確保と歳出削減、人材育成と意識改革など、たゆまぬ行財政改革に取り組み、人口規模や財政規模に見合った時代にふさわしいまちづくりを進めてまいります。

この度上程いたします令和3年度当初予算案は、「第5次岡谷市総合計画」に掲げる将来都市像「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」の実現に向けて、

- ・ともに支えあい、健やかに暮らせるまち
- ・未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち
- ・人が集い、にぎわいと活力あふれるまち
- ・安全・安心で、自然環境と共生するまち
- ・快適な生活を支え、住み続けたいまち
- ・みんなで作る、確かな未来を拓くまち

の6つのまちづくりの基本目標を基調とするほか、限られた財源を喫緊の政策課題に重点配分し、より効果的な施策展開を図るため、

- ・地域活力の再興
- ・しあわせを実感できる日常づくり

の2つを重点施策に掲げ、必要な施策・事業に財源を集中した、「新たな日常を創造する 元気・活力実現予算」として編成いたしました。

あわせて、国が策定しました「国民の命と暮らしを守る安心と希望のための総合経済対策」を踏まえ、令和2年度補正予算と令和3年度当初予算を一体とした「14か月予算」として編成を行いました。

次に予算編成の「重点施策」の考え方について、説明申し上げます。

はじめに「地域活力の再興」につきましては、感染症の拡大により、市民生活や地域経済は大きな影響を受けていることから、市内事業者の事業継続を強力に後押しすることで、雇用と市民生活を堅持するほか、消費需要を喚起することで地域経済の回復を図ってまいります。

また、コロナ禍により東京一極集中に対するリスクが改めて認識され、これに伴って新しい働き方や暮らし方、新しい人の流れなど、これまでとは違った動きが顕著になってきています。こうした動きを地方創生の契機と捉え、適時適切に取組を進めてまいります。

次に「しあわせを実感できる日常づくり」につきましては、子育て支援や健康づくりなどの福祉・教育分野、また暮らしを支える生活基盤整備など、第5次岡谷市総合計画の着実な推進により、市民の皆様がしあわせを実感できる日常づくりに取り組んでまいります。

これら重点施策に基づく令和3年度の一般会計当初予算額は、総額198億1,000万円、前年度比では4億2,000万円、2.1%の減といたしまし

た。

また、一般会計・特別会計の合計では、**総額256億3,310万円**、前年度比では**3億4,990万円**、**1.3%の減**といたしました。

一般会計歳入の主な事項でございますが、市税につきましては、令和2年度決算見込額を基に**62億200万円**、前年度比では**6億3,300万円**、**9.3%の減**を見込んでおります。

地方交付税につきましては、令和2年度決算見込額や地方財政計画などを基に**40億8,600万円**、前年度比では**400万円**、**0.1%の増**を見込んでおります。

また、一般会計歳出のうち、事業費の増減が大きいものとしたしましては、**総務費**では、岡谷駅前公共用地権利取得事業の増などにより、前年度比**8,035万3千円**、**4.6%増**の**18億3,982万5千円**、**民生費**では、障がい者自立支援等給付費、生活保護扶助費などが増となる一方、新西堀保育園・発達支援施設整備事業費の皆減などにより、前年度比**3億2,212万3千円**、**4.3%減**の**70億8,527万円**、**商工費**では、中小企業金融対策事業費、商業等振興補助金の増などにより、前年度比**3,914万7千円**、**1.9%増**の**20億6,458万3千円**、**土木費**では、仮称・諏訪湖スマートインターチェンジ整備事業費、道水路等新設改良事業費、橋梁維持補修費などが増となる一方、学校跡地保全対策事業費、市営住宅管理代行委託料の減などにより、前年度比**1億2,652万3千円**、**5.8%減**の**20億4,431万9千円**、**公債費**では、借換債元金償還金の皆増により、前年度比**2億103万5千円**、**9.2%増**の**23億7,566万5千円**としております。

次に、企業会計につきましては、水道事業・下水道事業・病院事業の3つの企業会計の収益的支出及び資本的支出の合計は、**129億8,837万1千円**で、前年度比**2億2,522万9千円**、**1.7%の減**といたしました。

それでは、基調に沿って、令和3年度当初予算案の概要を順次説明してまいります。

はじめに、基本目標『ともに支えあい、健やかに暮らせるまち』について説明申し上げます。

まず、**結婚に対する支援**といたしまして、新たな男女の出会いの場を創出するため、**恋つむぐ岡谷 出会いの場 創出事業**として、婚活バスツアー及び婚活バスツアーの参加者を対象としたブラッシュアップセミナーの開催のほか、岡谷市社会福祉協議会、諏訪湖勤労者福祉サービスセンターとの連携による婚活イベントなどを開催してまいります。

また、結婚に対する経済的な不安を解消するため、結婚に伴う住居費及び引越費用を支援する、**おかやでスタート 結婚新生活支援事業**につきましては、対象となる年齢を拡大して取り組み、結婚のきっかけとなる男女の出会いの場の創出から、結婚・定住までトータル的にサポートしてまいります。

母子保健の充実といたしましては、妊婦の口腔衛生の向上を図るため、**妊婦歯科健康診査事業**を実施するほか、産後の初期段階における支援を強化するため、産後2週間及び産後1か月の産婦を対象に**産婦健康診査事業**を実施するとともに、医療機関等への宿泊や通所によるサービスに必要な経費を助成する**産後ケア事業**の対象を、産後1年までの母子として拡大実施するなど、引き続き妊娠から出産、乳幼児期までの切れ目のない包括的な支援を実施してまいります。

また、**未来のげんきっず応援事業**では、出産のお祝いとしてオカヤペイ5,000ポイントを贈呈するほか、こどものくにの来館者、各種の子育て関連講座の参加者にポイントを付与することで、子育て世帯の経済的負担の軽減とオカヤペイのさらなる利用促進に努め、まちのにぎわい創出を図ってまいります。

地域とともに支える子育て支援の充実といたしましては、新たに**子ども食堂等関係団体連絡会設置事業**として、子どもたちの孤立や孤食に手を差し伸べる民間主体の活動をさらに地域に広げるとともに、民間実施団体のネットワークを強化し、地域全体で子どもを育てる風土の醸成と子どもの健やかな成長を支援してまいります。

また、子育てに関する相談・情報提供などの充実を図るため、「こどものくに」で2か月に一回実施しています、心理相談員による**子育て相談**を毎月実施することとし、楽しんで子育てができるよう、母親の不安に寄り添った、きめ細やかな支援を行ってまいります。

子どもの育成支援といたしましては、イルフ西堀保育園に併設し、4月に開所します**岡谷市子ども発達支援センター**において、新たに常勤の作業療法士を配置することで体制強化を図り、機能訓練、保育園等への巡回支援を充実するほか、言語聴覚士による支援など、心身の発達に支援を必要とする子どもとその家族に寄り添った療育支援を行ってまいります。

また、保育園において保護者への連絡ツールとして使用しているシステムを刷新しデジタル化を進めることで、「電話やメールによる連絡・報告」から「アプリを活用した連絡・報告」へ転換し、保護者負担の軽減と保育サービスの充実を図ってまいります。

このほか、継続実施いたします**ぼくもわたしもおかやっ子事業**では、郷土食材の素晴らしさを子どもたちに伝承するとともに、食育の推進を図ってまいります。

子育て世帯への経済的支援では、中学3年生までの子どもの医療費を支援する**子ども医療費給付事業**、幼児教育・保育の無償化に伴う**副食費の減免**、小中学校における**就学援助費**などにより、子育て世帯の経済的負担の軽減に努めてまいります。

さらに、安心して子どもを育てられる安定した住まいの提供を図るため、子育て世帯等を対象に**市営住宅への優先入居**を行うとともに、ユニットバス、網戸の設置により経済的負担の軽減と若年層の移住・定住を促進してまいります。

地域福祉の推進では、令和3年度を初年度とします「第4次岡谷市地域福祉計画」に基づき、**成年後見支援センター**を中心に成年後見制度の利用促進を図り、市民誰もが地域で安心して暮らせる環境を整えてまいります。

また、地域コミュニティ活動の拠点となります**地域サポートセンター**の一層の充実を図るため、各区をはじめとする関係団体との連携を深める中で、地域が抱える課題をともに解決していく体制の強化に取り組んでまいります。

高齢者福祉の推進といたしましては、新たに**地域支え合い型移動支援**として、高齢者の通院や買い物、通いの場への移動を支援しようとする地域住民の活動に対して、送迎サービス補償の加入保険料を全額補助することで、住民主体による支え合い活動を後押ししてまいります。

また、岡谷警察署のほか市内民間事業者と連携し、高齢者など支援を必要とする方を地域で見守る**あったか見守りネットワーク事業**では、新たに、登録者が関係する事故等への備えとして、市が個人賠償責任保険の保険料を負担する**事故救済制度**を導入することで、認知症高齢者とその家族が安心して暮らせる環境を整えてまいります。

さらに、高齢者の心身の多様な課題に対して、きめ細かな支援を実施するため、**高齢者の保健事業と介護予防等の一体的事業**として、個々の健康状態に応じた運動習慣や食習慣などの個別指導を行う「シニア運動療法教室」を新たに開催するほか、高齢者のフレイル予防を図るため、地域の通いの場において医療専門職による健康相談などに取り組んでまいります。

このほか、**一般介護予防事業**として、介護予防普及啓発、地域におけるリハビリテーション活動の支援など、各種の取組を通じて高齢者が持てる能力を発揮しながら、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができる環境づくりを推進してまいります。

障がい者（児）福祉の推進といたしましては、令和3年度を初年度とします「第5次岡谷市障がい者福祉計画」に基づき、地域生活支援の充実、自立支援と社会参加の促進、暮らしやすい環境の整備など、障がい者施策の一層の推進を図り、障がいの有無にかかわらず住み慣れた地域で安心して暮らせる地域社会の形成をめざしてまいります。

社会保障の円滑な運営といたしましては、**国民健康保険事業**について、財政運営の責任主体であります長野県とともに国保の運営を担い、安定的な財政運営に努めてまいります。

こうした中、令和3年度の税率につきましては、県から示されました仮係数による標準保険税率に基づき、平均3.8%の改定をお願いすることといたしました。

なお、確定係数における標準保険税率との差額分につきましては、基金繰入金等により対応することで被保険者の負担軽減を図ってまいります。

生活保護に至る前の段階での自立支援の強化を図る**生活困窮者自立支援事業**では、自立相談支援を核に、就労支援、住居確保支援、家計改善支援など、それぞれの状況に応じたきめ細やかな相談、対応を行い、生活困窮者の自立に向けて幅広く支援してまいります。

このほか、心配ごと相談、消費生活相談、ひとり親家庭相談など、生活に関する多様な相談窓口を一元化した**福祉総合相談事業**を継続し、それぞれの事情に応じて専門の相談員が丁寧な対応を行ってまいります。

保健・医療の推進では、**健康づくりの推進**といたしまして、コロナ禍による外出控えなどにより、体力の低下、栄養バランスの偏りなどが懸念されることから、新たに**Withコロナ時代を元気に過ごそう！健活プロジェクト**として、ウォーキングラリーの実施やシルキーチャンネルを活用した世代別の料理番組の放映のほか、音楽を使った健康サポート事業を実施し、市民の健康の保持増進を図ってまいります。

また、市民の皆様の健康に対する意識の高揚や国民健康保険特定健診の受診率向上を図るため、特定健診、人間ドック、各種がん検診等の受診者及び健康づくりに関する講演会の参加者のほか、生きがいデイサービス利用者に対して、オカヤペイのポイントを付与する**健康ポイント事業**を継続実施してまいります。

さらに、「岡谷市自殺対策計画」に基づく「**こころ**」と「**いのち**」の**ほっとサポート推進事業**では、地域におけるネットワーク強化や、自殺対策を支える人材の育成として、理美容関係者、介護事業者など、長時間接客する方を対象としてゲートキーパー養成講座を開催するほか、学校教育においては、**児童生徒のSOSの出し方に関する教育**を実施し、市民一人ひとりが「こころ」と「いのち」を大切にし、ともに支えあい健やかに暮らせるまちの実現をめざしてまいります。

地域医療体制の推進といたしまして、岡谷市病院事業では、天野病院事業管理者のもと、「**人材確保と人材育成**」、「**質の高い医療サービスの提供**」、「**効率的な運営による経営基盤の強化**」を重点項目として積極的な病院運営を進め、市民の生命と健康を守る市民病院として、また、第2種感染症指定医療機関として、コロナ禍にあっても質の高い医療サービスを継続的に提供し、市民の信頼や期待に応えることができる、経営基盤の強い病院づくりを推進してまいります。

また、診療体制の充実に不可欠な医師の確保につきましては、引き続き、信州大学医学部への訪問を重ねて連携を深めるほか、新たに**基幹型臨床研修病院**と

して初期研修医の受け入れに努めるとともに、医師養成課程向けの育英基金奨学金の効果的な活用を進めるなど、市と病院事業が一体となって取り組んでまいります。

このほか、岡谷市看護専門学校におきましては、国の「高等教育の修学支援新制度」に基づき、一定の要件に該当する学生の入学金及び授業料を減免し、地域医療を支える人材育成と学生の経済的負担の軽減を図ってまいります。

続きまして、基本目標『**未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち**』について説明申し上げます。

岡谷市教育大綱に教育理念として掲げます「**自立し、共生し、創造性溢れる『岡谷のひと』づくり**」の実現に向けて、子どもたちの確かな学びと成長の支えを実現し、豊かな感性と人間性を育みながら、家庭・学校・地域・行政の協働により「岡谷のひとづくり」を推進してまいります。

また、生涯を通じて学び続け、スポーツに親しむ環境づくりに取り組んでまいります。

学校教育の推進では、**やってみよう おかやキッズラボ事業**として、小学生の長期休業中における学習支援を湊小学校、川岸小学校、長地小学校及びカルチャーセンターにおいて実施するほか、中学2年生を対象として、放課後に学習支援を実施してまいりました**岡谷子ども未来塾**につきましては、新たに小学5年生を対象に加え、さらなる学習意欲の向上を図ってまいります。

チーム岡谷による学力向上推進事業につきましては、新たに長野県教育委員会から派遣を受け、引き続き配置する主任指導主事のほか、学力向上アドバイザーを中心として、児童・生徒の学力向上と教職員の資質向上をめざしてまいります。

また、**ふるさと岡谷に学ぶ学習の推進事業**として、市内企業と連携したプログラミング学習やキャリア教育など、地域資源を活用した岡谷スタンダードカリキュラムの実践を深め、郷土を愛する心を育み、ふるさと回帰につなげるとともに、将来のものづくりのまち岡谷を担う人材育成と、魅力と活力ある学校づくりを進めてまいります。

さらに、**情報教育推進事業**として、国のGIGAスクール構想により整備した1人1台端末等を効果的に活用し、情報活用能力の向上に加え、子どもたちの創造性と資質・能力を育み、激動する社会を生き抜く力の定着を図るため、児童生徒一人ひとりに個別最適化された学びの実現に向けて一層注力してまいります。

新たに実施いたします**小学校低学年外国語活動体験事業**では、現在公立保育園で実施をしております**世界にタッチ 英語に触れよう事業**の次のステップとして、また、小学校3年生から始まる外国語活動に抵抗なく取り組めるよう、小学校1・2年生を対象に、国際交流センターの外国語人材とノウハウを活用した英語体験の機会を提供することで、コミュニケーション能力の向上と、急速に進

展するグローバル化に対応することができる人づくりに取り組んでまいります。

施設整備では、**安全で快適な学習環境整備事業**として、**岡谷東部中学校管理教室棟の長寿命化大規模改修工事**の、令和3年中の竣工に向け事業を推進するほか、計画的に進めております**学校トイレの洋式化**については、令和3年度は長地小学校のトイレの洋式化に取り組み、こうした事業を通じて、**安全・安心で快適な学習環境を整えてまいります。**

子ども総合相談センターでは、長期欠席傾向にある児童・生徒の自立に向けた努力を支援するフレンドリー教室、中間教室を引き続き設置するほか、専任の相談員、専門カウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどにより、保育園、学校、専門機関などと連携しながら、子どもたち一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行ってまいります。

通学路交通安全対策事業では、「第3次通学路安全対策プログラム」に基づき、カラー舗装や区画線、ガードポスト等の設置など、計画的な安全対策工事を実施するとともに、次期プログラムを作成し、切れ目なく通学路の安全対策に取り組み、子どもたちの安全を確保してまいります。

学校教職員の働き方改革では、引き続き、市内4中学校に2名ずつ**部活動指導員を配置**するなど、本来の業務であります授業づくりや、子どもたちと向き合い指導に専念することができる環境を整えることで、より質の高い授業の実現と学力向上に努めてまいります。

生涯学習の推進では、人生100年時代を豊かなものにするため、**豊かな人生を紡ぐ“岡谷学”講座事業**として、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供するとともに、その学びを地域で還元することができるひとづくりに取り組んでまいります。

また、市立岡谷図書館では、幼児期からの図書館利用を促進するとともに、就学前における読書習慣の定着と読書を通じた豊かな感性の醸成を図るため、3歳児を対象にイラスト付きの図書館利用カードをプレゼントする**ファーストチョイスブック事業**を実施し、初めて自分で本を選び借りる機会と楽しみを創出してまいります。

スポーツ・文化の振興では、**スポーツの振興**といたしまして、市民の皆様がスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」ことで、多様な形でスポーツに関わり、スポーツを通して心と体を養い、はつらつとした暮らしを送ることができるよう、スポーツ機会の充実とライフスタイルに応じたスポーツ活動を推進してまいります。

ホストタウンプログラム推進事業につきましては、感染症の影響により、残念ながら卓球カナダ代表選手の事前合宿の招致には至りませんでした。非対面による交流などにより、相手国でありますカナダとの親交を深めるほか、日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流などを通じて、スポーツによる地域の活性化、教育文化の向上及び共生社会の実現を図ってまいります。

また、**パラリンピック聖火ビジット**として、富士見町で採火したパラリンピック聖火を、第52回市民祭岡谷太鼓まつりにあわせて市民の皆様にご覧いただく機会を設け、大会に向けた機運の醸成を図ってまいります。

おかやキッズ 運動大好き事業では、子どもの体力及び運動能力の向上と教員の指導力向上を図るため、小学校1・2年生の体育の授業に専門指導員を派遣するほか、運動の苦手意識を克服するための**おかや小学生体育塾**を開催してまいります。

スポーツ&健康 高齢者運動促進事業では、これまで65歳以上の市民の方を対象に、年4回市民総合体育館を無料開放する「元気いきいき岡谷シニアスポーツデー」を設けてまいりましたが、新たに市外の方を対象に加えて実施することで、運動に取り組むきっかけづくりと健康に対する意識の高揚を図るとともに、施設利用のさらなる促進に努めてまいります。

このほか、スポーツ環境の整備・充実として、**屋内市民水泳プールの大規模改修工事**に向けて実施設計業務に着手いたします。市民一人ひとりが安全で快適なスポーツ活動を行うことができるよう、スポーツ施設の長寿命化を計画的に進めてまいります。

文化・芸術の振興では、**岡谷蚕糸博物館企画展等開催事業**として、長野県内で活躍する染織作家にスポットを当てた「信州の作家展」の開催、また、令和3年度に創立110周年を迎える岡谷工業高校の製糸業発展への貢献を振り返る「岡工110周年記念展」などを開催することで、岡谷市民のみならず、より多くの皆様にシルクの良さと魅力を伝え、シルク文化・シルク産業の発展へつなげてまいります。

岡谷美術考古館では、特別企画展開催事業として、地元にはゆかりのある作家の多岐にわたるジャンルの企画展示を開催することで、質の高い芸術、文化に触れる機会を創出するとともに、来館者の増によるまちなかのにぎわい創出につなげてまいります。

また、アーティスト育成事業では、対象を長野県内出身及び在住、または岡谷市に関わる題材を扱う作家として拡大実施することとし、技法や展示方法に関する助言を行うとともに、企画展示室を貸し出し、個展を開催することで、意欲ある作家の活動を後押ししてまいります。

このほか、建設から100年目を迎える国の登録有形文化財であります旧山一林組製糸事務所について、シルク関連イベントと連携を図る中で、100周年の記念事業を実施し、市内外へ広く岡谷のシルク文化を発信してまいります。

続きまして、基本目標『人が集い、にぎわいと活力あふれるまち』について説明申し上げます。

産業の振興では、**工業の振興**といたしまして、3年目を迎えます「岡谷市工業活性化計画」に掲げる将来工業都市像「次世代を切り拓く、高い技術のものづくりのまち」の実現に向け、積極的に各種施策を展開してまいります。

企業立地の推進では、工場の新設・移転時に土地の取得額などを助成する**商工業振興条例補助金**や、工場等の家賃を助成する**企業立地支援補助金**により、市外企業の誘致をはじめ、市内企業の事業拡大と流出防止、空き工場の活用促進に取り組むほか、**工場用地確保推進事業**として、関係機関等との連携を図りながら工場用地に適した未利用地の把握に努め、工場用地の不足を解消してまいります。

また、新規創業者支援といたしまして、「創業支援事業計画」に基づく、起業、技術相談、販路開拓の支援や**創業のまち岡谷実現事業**による資金面での支援のほか、新規創業者に対して諏訪圏工業メッセの出展ブースを確保するなど、創業まもない中小企業者の経営基盤の確立や受注開拓を支援し、地域経済の活性化と産業集積の拡大を図ってまいります。

さらに、コロナ禍によってIT企業を中心とした企業移転や多様な働き方が生じている中、岡谷市がその受け皿となるべく、市外から市内へ転入し、事務所等を賃借して操業する情報通信業を対象として、家賃や通信環境の整備に要する経費の一部を助成する**情報通信業企業立地支援補助金**を新たに創設し、企業誘致を促進するほか、**多様な働き方サポート補助金**として、市内の民間事業者が運営するコワーキングスペースの利用料等の一部を助成することで、テレワークなどの多様な働き方を推進するとともに、新たな出会いによるビジネスチャンスの創出を図ってまいります。

このほか、新たに**先端ツール活用支援事業**として、デジタル技術を活用して生産性の向上や業務の効率化などに取り組む市内企業を支援することで、デジタルトランスフォーメーションを促進し、企業競争力の強化を図ってまいります。

工業活性化対策の推進では、精密加工技術を強みとして、少量多品種への対応や高付加価値製品の製造といった本市の製造業が持つ特長を最大限に活かすことができるよう、新技術・新製品等の開発を支援する、**新技術・新製品等ものづくりチャレンジ企業応援事業**、医療分野や航空宇宙分野への参入に有効な規格

の認証取得を支援する**次世代産業参入環境整備支援事業**を実施してまいります。

また、**展示会共同出展事業**として、大都市圏で開催される展示会へ共同出展するほか、**新規受注開拓推進事業補助金**に新たにデジタル枠を設け、オンライン展示会への出展に要する経費の一部を助成することで、市内企業のPRと新たな受注確保に努めてまいります。

経営環境の充実では、市内企業が持つ優れた技術や資産を将来へ引き継いでいくため、**事業承継支援事業**として積極的に市内企業の訪問を実施する中で、具体的なマッチングを模索するほか、経営者の高齢化などにより廃業を余儀なくされる企業等の技術や設備を引き受ける市内企業などに対して、その際に必要な経費を助成してまいります。

また、感染症の影響により売上が減少し、未だ回復に至らない市内事業者の資金繰りを支援するため、市制度資金に、新たに**特別経営安定資金**を創設し、借入れの際の保証料を全額補助することなどにより事業継続を後押ししてまいります。

このほか、**先端設備等導入計画認定事業**として、生産性向上特別措置法に基づき、生産性を向上させる先端的な設備を導入した認定事業者に対し、新たな設備投資に係る固定資産税を3年間ゼロとする特例措置を国の制度延長を踏まえ継続実施するほか、国の各種支援制度を積極的に活用できるよう、引き続き市内中小企業の事業環境の整備に取り組んでまいります。

連携の強化では、2年目となります**モノづくり集積地SUWAのヒトづくりプロジェクト**として、信州大学、公立諏訪東京理科大学、NPO諏訪圏ものづくり推進機構、諏訪圏内5市町村との連携により、引き続き小型ロケット製作を通じた技術力の向上と提案型技術者の育成、また、若者を対象としたキャリア育成プログラムの開発に取り組むほか、地域製造業のプロモーション、ブランディングを強化し、稼ぐ力の向上を図ってまいります。

商業・サービス業の振興といたしましては、3年目に入ります「岡谷市商業活性化計画」に基づく諸施策を積極的に展開し、商業の将来像として掲げる「人が集い、暮らしに彩りと潤いがあふれ、楽しいがあるまち」の実現をめざしてまいります。

商業環境の立地競争力の強化を図るため、**商業等振興補助金**により新規出店

の際の改修や、既存店舗の改修に要する経費などを助成するほか、市内商業会が行う街路灯のLED化に対して必要な経費を助成することにより、まちなかのにぎわいの創出を図り、回遊性のある商業地の形成をめざしてまいります。

また、岡谷TMOとの連携を深める中で、商業会等が感染症対策を徹底した上で行う販売促進活動を積極的に支援するほか、商業会等の連携による取組を促進することで中心市街地のにぎわいを取り戻し、消費需要の喚起に努めてまいります。

さらに、まちなかの活性化のため、イルフプラザへ設置される「LCV-FM サテライトスタジオ」と連携を図りながら、市内商業会や店舗等の知名度向上に向けた積極的な情報発信に努めてまいります。

このほか、岡谷版電子マネーオカヤペイにつきましては、岡谷商工会議所との連携を深めながら、行政ポイントの付与、消費者への利用促進など、積極的に支援を行ってまいります。

農業の振興といたしましては、市内農業者が大都市圏で開催されるマルシェ等に出展する際の経費や販促資材の製作に要する経費を助成する**農産物販路拡大支援事業**を継続実施し、農業経営の安定と販路拡大を支援してまいります。

また、青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農初期段階の青年就農者に対して、経営の安定化を支援する**農業次世代人材投資事業**を実施するほか、新たに**オープンエアマーケット事業**として、蚕糸博物館マルベリー広場において定期的に青空市場を開催することで、生産者と消費者の交流を図り、市内農業生産物の販売促進、地産地消の推進、担い手の育成などに取り組んでまいります。

森林の整備といたしましては、**森林経営管理事業**として、地域林政アドバイザーを中心に、長野県と諏訪6市町村で組織する森林経営管理制度推進協議会による共同事業を実施するなど、森林の適切な経営管理を推進してまいります。

また、**松くい虫の防除対策**につきましては、引き続き松林の監視体制を強化するとともに、薬剤購入に要する経費を助成するなど、関係機関と連携しながら被害の拡大防止に取り組んでまいります。

農林業の基盤整備といたしましては、**林道常現寺線**の舗装工事のほか、**五兵衛汐へのゲート設置工事**、**小井川沖田の農業用ポンプの更新工事**を進めてまいり

ます。

ブランドの振興といたしましては、製糸業で世界に名を馳せ、日本の近代化を支えた「シルク岡谷」、「糸都 岡谷」の歴史と文化を継承するとともに、岡谷ブランドの核となるシルクを活かしたまちのにぎわいを創出するため、新たに**岡谷シルク推進事業**として各種の取組を展開してまいります。

まず、**ブランド発信事業**として、岡谷シルクの文言とロゴマークの地域団体商標登録を行い、ブランド力の向上を図るとともに、まち全体でシルクを感じることができる環境を創出するほか、岡谷市のシルク産業の将来を支える人材を育成するための教育プログラムの開発・提供などに取り組んでまいります。

次に、**養蚕振興事業**として、養蚕事業者に対する**桑園等整備事業補助金**を継続するほか、活動の最終年となります**地域おこし協力隊**を中心として取り組んでおります、オール岡谷産のシルク製品の確立に必要な岡谷産繭の安定供給に向け、市内製糸業者が岡谷産繭を購入する際に、繭の買取価格に上乘せを行う補助事業を実施してまいります。

次に、**岡谷シルク体験事業**として、絹織物の体験機会を提供する滞在型ワークショップ、学生が行うシルク作品の制作活動に対する支援、市内の製糸関連資産等を巡るまちあるき事業など、岡谷でしか体験することができないプログラムを用意、提供することで、市外から多くの人を呼び込み、交流人口、関係人口の創出・拡大を図ってまいります。

観光の振興では、本市を代表する**市民祭岡谷太鼓まつり**について、昨年は感染症の影響により残念ながら中止といたしましたが、第52回岡谷太鼓まつりでは、来場される皆様と2年分の熱気と楽しみを共有する思いを持って準備を進めてまいります。

このほか、鳥居平やまびこ公園や整備が進んでいます諏訪湖周サイクリングロード、諏訪湖をはじめとした恵まれた自然環境など、本市の地域資源を活用した観光誘客に取り組んでまいります。

働く環境の充実では、コロナ禍により地方就職に注目が集まる中、市内企業の積極的な採用活動を支援するため、新たに**採用をがんばる企業応援補助金**として、民間就職情報サイトの活用や採用活動のオンライン化への取組に要する経費を助成することで、コロナ禍における非対面による採用活動を後押しし、新規

学卒者や第二新卒者のU I J ターン就職のほか、移住希望者の市内企業への就職を促進してまいります。

また、地元学生のUターン就職を促進するため、新たに**ふるさと回帰情報発信事業**として、市内3高等学校との連携により、進学予定の高校生に対して市のSNS公式アカウントへの登録を促し、学生に対して進学後も継続的かつダイレクトに就活イベントなどの情報を発信するとともに、市外の学校に通う市内在住高校生に対しても周知に努めてまいります。

さらに、インターンシップの促進や県内外大学等へ進学した学生の市内企業への就職を促進するため、市内企業見学会や先輩社会人との交流、就職活動に役立つセミナーなどを開催し、学生の就職活動を段階的にサポートする**若年人材確保事業**に取り組んでまいります。

このほか、**障がい者等雇用促進事業**につきましては、**障がい者就労体験補助金**の上限額を拡大し、インターンシップの受け入れ促進とあわせ、障がい者の就労体験の機会の充実と雇用のさらなる促進を図ってまいります。

新たに創設します**働きやすい職場づくり応援補助金**につきましては、これまで女性が働きやすい環境整備に取り組む中小企業を支援してまいりましたが、さらに発展させ、手すりやスロープの設置、トイレや更衣室の整備など、年齢や性別に関係なく、障がいがある人もない人も、誰もが働きやすい職場環境の整備に取り組む市内中小企業を支援することで、多様な人材の雇用促進と定着率の向上を図ってまいります。

移住・定住の促進では、新たに**おかやへ行こう 関係人口等創出・拡大事業**として、岡谷駅構内に観光案内所を新たに設けるとともに、eバイクを活用した誘客促進に努めるほか、市内でリモートワークをしながら休暇を過ごすワーケーションを受け入れる体制を整備してまいります。また、市内の観光スポットなどをめぐるサイクルツーリズムやゴルフ体験など、本市の観光資源と人的資源を生かした**おかやスポーツツーリズム事業**を実施することで、交流・関係人口の創出・拡大を図ってまいります。

おかやの魅力体験事業では、市内宿泊施設での短期の宿泊費用などに対する助成を拡充するほか、市内での最長2か月間の生活体験に必要な経費の一部を助成するなど、本市の暮らしやすさを実感できる機会を提供することで、定期的に岡谷市を訪れ、地域や地域住民と多様なつながりを持つ関係人口の創出に注力してまいります。

さらに、**若者おみや暮らし応援事業**として、近隣の大学等へ通う学生並びに29歳以下の勤労者が市内の民間賃貸住宅に居住する場合、その家賃に対する助成を行うほか、**市営住宅への学生居住事業**として、堂前、加茂A、加茂Bの市営住宅の空き部屋を公立諏訪東京理科大学の学生の住まいとして提供することで、市営住宅の空き部屋の有効活用とコミュニティの活性化を図るとともに、若者の移住・定住を促進してまいります。

このほか、若者の移住・定住の促進とあわせて人手不足の解消を図るため、**就業・創業移住支援事業**として、国、県と連携して、県外から市内へ移住し、起業もしくは一定の要件を満たす中小企業等へ就業した方のほか、首都圏等の企業に勤めつつ、市内へ移住し、引き続き業務をテレワークで行う方に、移住等に要する経費として最大100万円を助成してまいります。

続きまして、基本目標『安全・安心で、自然環境と共生するまち』について説明申し上げます。

安全対策の推進では、**危機・防災・減災対策の推進と消防力の強化**といたしまして、消防団装備の充実と地域防災力の強化を図るため、消防団に配備しております消防団車両を計画的に更新しております。令和3年度につきましては、第9分団に災害対応型多機能消防車両を配備し、将来発生が予想されております大規模地震や自然災害への備えと地域の安全・安心を確保してまいります。

また、**感染症対応避難所設置・運営訓練事業**として、感染対策を講じた受付の設置、避難者同士の身体的距離の確保、動線の分離など、感染リスクを想定した訓練を通じて、各区の自主防災組織が迅速かつ的確に対応できる体制を確立し、地域の防災・減災力のさらなる強化を図ってまいります。

近年、台風や集中豪雨による被害が相次ぐ中、河川氾濫や浸水被害を未然に防ぐため、新たに**河川緊急浚渫推進事業**として、土砂や樹木によって流れが阻害されている河川の浚渫を計画的に実施するほか、民家等に近く、早急に整備が必要な**河川の改修事業**に財源を重点配分し取り組んでまいります。

このほか、計画的に進めております**ため池整備事業**として、長野県により「防災重点農業用ため池」に追加指定されました、川岸三沢にあります東除ヶ入ため池の地質調査及び耐震診断を実施するほか、全7箇所[※]の防災重点農業用ため池に関わるハザードマップを作成し、近隣住民への周知徹底に努めてまいります。

生活安全対策の推進といたしましては、**特殊詐欺対策機器設置補助金**として、対策機器の設置に要する経費の一部を助成することで、特殊詐欺や悪質な電話勧誘販売を初期段階で防止し、市民の財産を守るとともに犯罪のない安全・安心なまちづくりを推進してまいります。

また、各区等が行います**蛍光灯型防犯灯のLED化**を支援し、夜間における安全・安心を確保するとともに、環境負荷や維持管理経費の軽減などに努めてまいります。

環境保全の推進では、「第4次岡谷市環境基本計画」に掲げる望ましい環境像「あふれる緑と清らかな水につつまれたまち」の実現をめざすとともに、健全で恵み豊かな環境を将来世代へ引き継ぐため、各種施策を展開してまいります。

自然環境の保全といたしましては、**めざせ！ゼロカーボン推進事業**として、エ

コドライブに取り組む市内事業所の登録や地球温暖化防止セミナー、小中学生を対象とした環境教育などにより、2050年二酸化炭素排出量実質ゼロに向けた啓発事業に取り組んでまいります。

また、**諏訪湖ヒシ除去体験事業**として、引き続き諏訪湖漁業協同組合などと連携しヒシの除去作業に取り組むほか、環境教育の一環として、小学生を対象としたヒシ除去体験を行うことで、諏訪湖浄化の推進と諏訪湖のイメージアップを図ってまいります。

生活環境対策の推進といたしましては、収集カレンダーのリニューアル等によるわかりやすいごみの出し方のPRに努めるほか、**硬質プラスチック試験回収実施事業**によるリサイクルや、草・剪定枝等の資源化の推進によりごみの減量を図ってまいります。

居住環境の充実では、**空き家対策事業**として、空き家の除却費用に対する補助、空き家バンク制度のさらなる活用促進など「岡谷市空家等対策計画」に基づく事業展開により、空き家の利活用及び適正管理を推進するほか、新たに**空き家バンク移住・田舎暮らし応援事業**として、空き家を購入し市外から市内へ転入した場合に、空き家の改修費に対する助成とあわせて移住奨励金を交付することで、コロナ禍による新しい人の流れを呼び込み、移住・定住につなげるとともに、住環境の向上による安全・安心の確保と景観の保全を図ってまいります。

また、**老朽団地住替事業**として、廃止の方針としている老朽化が著しい市営住宅の入居者に対し、移転費用を補償するとともに、移転後の家賃については従前の家賃に据え置くことで、住み替えを促進し入居者の安全確保と住環境の向上を図ってまいります。

さらに、**中村A市営住宅の外壁等防水改修**を行い、市営住宅の維持保全と長寿命化を図ってまいります。

このほか、**住宅防災・減災事業**として、耐震診断及び耐震改修に要する経費を助成することで、住宅の耐震化を促進してまいります。

続きまして、基本目標『快適な生活を支え、住み続けたいまち』について説明申し上げます。

計画的土地利用の推進では、長野県及び諏訪湖周3市町の連携による諏訪湖周サイクリングロード整備事業として、岡谷市管理区間のうち、諏訪湖ハイツ前及び湖畔広場前の整備工事等を実施し、諏訪湖の景観を活かしつつ、観光や健康づくりなど、多様な目的を持ち、集うすべての人が安全で快適に自転車を利用できる環境づくりを進めてまいります。

都市基盤の整備では、幹線道路と交通網の整備といたしまして、県事業であります地域幹線道路整備事業により、主要地方道下諏訪辰野線（岡谷川岸線）の川岸小学校前から観蜚橋までの間の整備工事に向けた用地測量等に着手してまいります。

また、諏訪湖サービスエリアへの仮称・諏訪湖スマートインターチェンジ整備事業として、地域産業の発展、市民生活の利便性の向上や地域のさらなる活性化等を図るため、地元対策委員会並びに国、長野県、諏訪市、NEXCO中日本等と連携を図りながら事業を推進してまいります。令和3年度につきましては、アプローチ道路の築造工事に着手し令和5年度末の供用開始をめざしてまいります。

生活道路の整備といたしましては、交通量の多い主要幹線道路や身近な生活道路を中心に計21箇所、総延長約5kmにおよぶ舗装の維持補修を行うとともに、劣化が軽微な段階で修繕などを講じる予防保全型の維持補修に努めてまいります。

また、生活道路交通安全対策事業として、ゾーン30の指定をしております銀座地区内の103号線（西堀通り線）におきまして、これまでに行ってきた整備について、ビッグデータを活用した効果検証、解析などを改めて行うことで、より効果的な整備へつなげ、交通事故の発生抑制と地域の安全確保につなげてまいります。

こうした市民の皆様の身近な生活道路の整備につきましては、令和2年度に引き続き、財源を重点配分し取り組んでまいります。

橋梁維持補修事業として、これまでに実施してまいりました、道路法に基づく

定期点検の結果を踏まえ、川岸橋原の天竜川に架かります第二天竜川人道橋、湊小坂の中央自動車道に架かります花上寺橋の維持補修工事のほか14箇所の橋梁点検を実施してまいります。

上下水道の維持・整備といたしまして、水道事業では、将来の水需要の動向や施設の老朽化に注視するとともに、「岡谷市水道事業経営戦略」及び「岡谷市水道事業基本計画」に基づき、将来を見据えた経営基盤の強化を図りつつ、今井上向配水池の築造工事をはじめとする水道施設の再構築事業に取り組むほか、水道施設の更新・耐震化を計画的に進め、安全で安心なおいしい水を将来にわたり安定的に供給してまいります。

下水道事業では、「岡谷市下水道事業経営戦略」をはじめとする各種計画を基本として、予防的修繕を行う下水道ストックマネジメント（長寿命化）事業のほか、下水道総合地震対策事業により災害に強い施設整備を推進してまいります。

また、下水道雨水渠整備事業として、諏訪信用金庫本店から県道檜川岡谷線までの間の山下幹線における整備を進め、浸水被害の軽減を図り、市民の安全な暮らしの確保に努めてまいります。

続きまして、基本目標『みんなでつくる、確かな未来を拓くまち』について説明申し上げます。

地域コミュニティの振興では、**市民総参加の推進**といたしまして、まちづくりの基本理念であります岡谷市民憲章について、7月に制定50周年の大きな節目を迎えることから、岡谷市民憲章推進協議会との協働により記念事業を行い、広く市民へ周知し、市民総参加のまちづくりを推進してまいります。

また、**高校生まちづくり推進事業**として、近い将来、岡谷市を担う高校生が岡谷市の今を知るとともに、岡谷市の将来を考え、自ら行動する機会を創出するほか、地域の方々と係わりながらまちづくりに携わることで、岡谷市への愛着を育み、Uターンの足がかりとしてまいります。

市政運営の推進では、市税などの歳入確保、限られた財源の選択と集中による重点配分や歳出削減のほか、組織及び定員の適正化などに努め、**持続可能な行財政運営**を推進してまいります。

また、**公有財産の適量・適正化**といたしましては、**公共施設等総合管理計画推進事業**として、令和2年度策定の「岡谷市公共施設個別施設計画」に基づき、計画的な維持管理、修繕、更新等を進め、少子高齢化、人口減少時代に見合った公共施設の最適化と長寿命化を推進してまいります。

このほか、**ふるさと寄附金 寄附促進事業**では、市内事業所等の協力により、返礼品のさらなる充実と積極的なPRを進め、財源の確保とあわせて本市の魅力発信と知名度向上に努めてまいります。

I C T（情報通信技術）利活用の推進といたしましては、**R P Aによる業務効率化事業**として、ふるさと寄附金 寄附促進事業における寄附受付、発送依頼事務をR P Aの導入により自動化を図り、業務の効率化と働き方改革を推進してまいります。

なお、行政分野のデジタル化につきましては、国や県の動向に注視しながら、引き続き研究、検討を進め、業務の効率化とあわせて市民サービスの向上に努めてまいります。

このほか、公共施設におけるサービス向上及び外国人観光客を含めた来訪者の利便性向上を図るため、公共施設へ**公衆無線LAN環境を整備**してまいります。令和3年度につきましては、市民総合体育館スワンドームへ整備することと

し、あわせて効果検証を行いながら、他施設への計画的な整備を進めてまいります。

以上、令和3年度予算編成の概要を説明申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、これまでにない大きな影響が岡谷市にも及んでおり、そして、ウィズコロナ、ポストコロナと言われる新たな時代の波が押し寄せています。

その大きな波を的確に捉え、市民と行政が手を携え、地域が一体となって「**第5次岡谷市総合計画**」に掲げる基本目標の達成に向けて、強く、しなやかに対応しながら歩みを進めることが、将来都市像「**人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷**」の実現と、市民誰もが安全で安心して、健康で生きがいを持って暮らすことができ、このまちに住み、働くことに誇りと自信、そして、愛着を持てるまちの実現につながるものと考えております。

引き続き、市民の皆様の声に真摯に耳を傾け、寄り添い、スピード感を持って対応しながら、将来にわたって持続可能で、将来のまちに多くの夢と希望を描くことができる、確かなまちづくりを進め、岡谷に住み、働き、学び、訪れるすべての人に活躍の場や生きがいがあり、また、生活に彩りと潤い、楽しみがあって、幸せを実感でき、このまちに住み続けたい、住んでみたいと思える満足度の高い岡谷市を、市民の皆様とともに創り上げるため、説明してまいりました各種施策・事業について、積極果敢に取り組んでまいります。

市民誰もがしあわせで、安心して暮らせる新たな日常づくり、そして、にぎわいと活力あるまちの再興に向けて、全力を尽くしてまいりたいと強く決意をしております。

議員各位並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます、私の所信の一端といたします。